

# 和歌山

地域面3ページ

## 和歌山支局

〒640-8154 和歌山市六番丁5  
和歌山第一生命ビル4階  
TEL.073(431)1411  
FAX073(433)0650  
wakayama@mainichi.co.jp

### 【通信機関】

橋本	0736(32)0063	新宮	0735(28)1751
海南	073(482)0675	御坊	0738(22)2511
湯浅	0737(62)2870	田辺	0739(26)1026

【広告問い合わせ】 073(423)9291  
【購読問い合わせ】 0120-468012

星の占い  
マーク矢崎  
11日

# 西日を受けて神幸船は走る

絵と文・熱田親憲 題字・熱田泰華

## 熊野古道 みちのくまの記

10

10月15、16両日、熊野三山の一つ熊野速玉大社の例大祭が行われた。初日は神馬による陸渡御祭、2日目は神輿による船渡御祭。と

10月15、16両日、熊野三山の一つ熊野速玉大社の例大祭が行われた。初日は神馬による陸渡御祭、2日目は神輿による船渡御祭。と

もに五穀豊穡を祝う秋祭り、神輿を囲んで氏子や住民と共に喜び合う祭りである。例大祭のメインは2日目の午後の船渡御祭である。午前中は熊野速玉大社の摂社、神倉神社のある神倉山に登った。登山口の鳥居前は、早くも神幸船を引く諸手船に乗る氏子の人たちの参拜でにぎわっていた。

参詣者に促されて私

さるように迫ってくる。磐座信仰の原点である巨岩を御神体にした神倉神社がその岩陰に鎮座していた。神話時代に神武天皇が東征の際ここに立ち寄り、力を得て熊野・大和を制圧したという伝承がある。また熊野権現の神々が最初に降臨したところだと言う熊野信仰が一般的だ。まさに速玉大社の奥の院といった趣だ。

紀伊半島豪雨の大洪水は、水位があつた橋脚に向かい大祭は終

午後2時、熊野速玉大社へ急ぐ。大社本殿を出た熊野大夫須美大を鎮座していた。神話の神輿は新宮市内を巡回し、表通りはにぎわった。午後4時すぎ、熊野川大橋のたもとに河原に到着し、神霊の神輿を神幸船に移す神事を待つ。儀式を見守る土地の人が大橋を指して「(2011年、紀伊半島豪雨の)大洪水は、水位があつた橋脚

午後2時、熊野速玉大社へ急ぐ。大社本殿を出た熊野大夫須美大を鎮座していた。神話の神輿は新宮市内を巡回し、表通りはにぎわった。午後4時すぎ、熊野川大橋のたもとに河原に到着し、神霊の神輿を神幸船に移す神事を待つ。儀式を見守る土地の人が大橋を指して「(2011年、紀伊半島豪雨の)大洪水は、水位があつた橋脚

午後2時、熊野速玉大社へ急ぐ。大社本殿を出た熊野大夫須美大を鎮座していた。神話の神輿は新宮市内を巡回し、表通りはにぎわった。午後4時すぎ、熊野川大橋のたもとに河原に到着し、神霊の神輿を神幸船に移す神事を待つ。儀式を見守る土地の人が大橋を指して「(2011年、紀伊半島豪雨の)大洪水は、水位があつた橋脚

午後2時、熊野速玉大社へ急ぐ。大社本殿を出た熊野大夫須美大を鎮座していた。神話の神輿は新宮市内を巡回し、表通りはにぎわった。午後4時すぎ、熊野川大橋のたもとに河原に到着し、神霊の神輿を神幸船に移す神事を待つ。儀式を見守る土地の人が大橋を指して「(2011年、紀伊半島豪雨の)大洪水は、水位があつた橋脚

## 神、人一体に五穀豊穡喜ぶ

たちもゆっくりと登り始めた。急勾配の538段の石段半ばで登り口に書かれた「無理しないで」の立て看板の意味を思い知った。

30分ほど登ると、木々からの風はひんやりし、汗ばんだ身体が清められる感じがした。

鳥居をくぐると間もなく眼前がひらけ、神倉山の頂上に到着。巨岩のゴトヒキ岩がかぶ

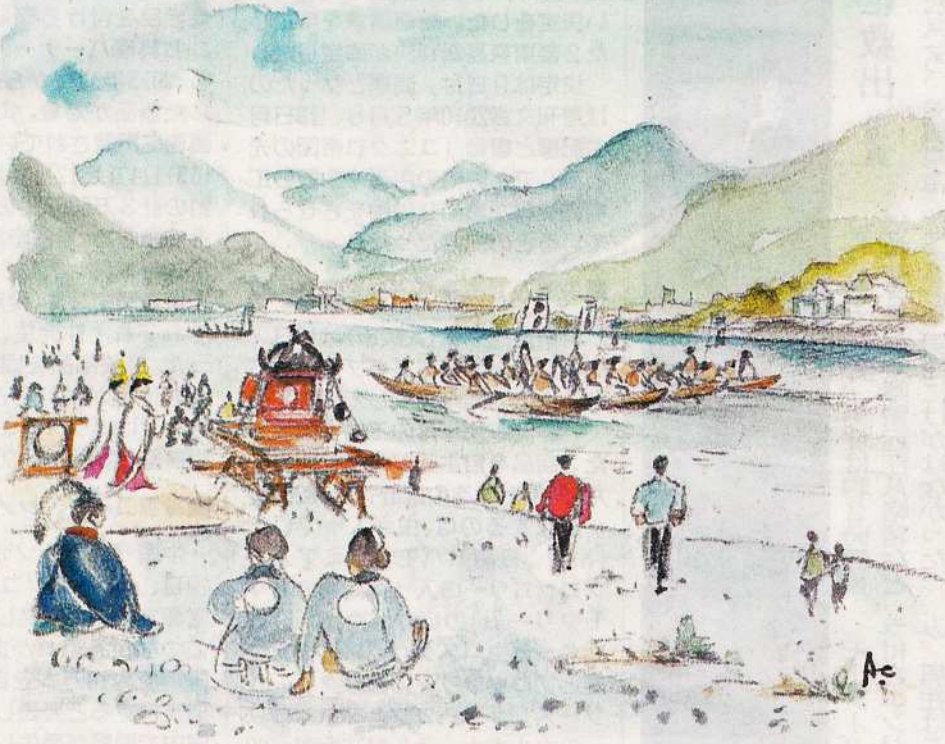
平安時代以降は修験者の修行の場にもなった。神倉神社の拝殿に立つと、背後の巨岩に超人間的エネルギーを感じ、神の存在を思うのは、昔も今も変わらない。また、眼下に熊野川や熊野灘が一望でき、豊かな自然の恵みに感謝せずにはおれない場所である。この神倉山は磐座信仰、熊野権現信仰の起源という説にもうなずけ

9隻の早船が一斉にス

例大祭は神社と住民が一体となった祭りであり、陸渡御祭の「静」と船渡御祭の「動」のかを尋ねると、昔は巫婆という女性が乗って權を回して踊るハリハの祭りと神倉神社の原点をみた感じがした。

さらし立て早舟出づる秋祭の 泰華

(次回は来年1月8日に掲載します)



熊野川大橋(新宮市新宮)付近にて